

第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会

鹿児島市立病院リハビリテーション部 鶴川俊洋

第36回日本臨床スポーツ医学会学術集会（会長：女子栄養大学 津下一代教授）が、2025年11月2～3日に幕張メッセで「ライフパフォーマンスを高めるスポーツ医学」をメインテーマとして開催されました。

学術集会初の女性会長として臨まれた開会挨拶では、人生にスポーツが彩りを与えるようお願いを込めた学術集会であること、臨床スポーツ医学の使命、多職種交流の重要性などが熱く語られました。特別講演4、シンポジウム23、多彩な委員会企画に加え、一般演題（572題）も多く集まり、各会場は満席の状況でした。これまでの学術集会では整形外科・外傷系疾患とスポーツ医学の話題が中心でしたが、今回は循環器疾患・がん・肥満症・糖尿病など内科系疾患とスポーツ医学のテーマも多く取り上げられていました。また会場近くのJFA夢フィールドの見学ツアーが組まれ、サッカー日本代表が宿泊地として使用する施設内のグラウンド・医師診療室・トレーナールーム・トレーニングルーム・ロッカールーム・リハビリ機器など最先端の設備に感嘆の声があがっていました。今回の学

津下一代会長
の会長講演



JFA 夢
フィールド
見学ツアー

術集会の現地参加者は目標以上の約2,100名となり、閉会式まで多くの参加者が集っていました。

次回は早稲田大学スポーツ科学学術院鳥居俊教授のもと2026年11月7～8日に軽井沢で開催されます。

第50回日本重症心身障害学会学術集会

東京科学大学病院リハビリテーション科 酒井朋子

2025年11月21～22日の2日間、三重県津市の三重県総合文化センターにおいて、第50回日本重症心身障害学会学術集会が開催されました。本学術集会は、国立病院機構三重病院の村田博昭先生を学術集会会長とし、重症心身障害領域に携わる幅広い会員が参加する場となりました。看護師、保育士、児童指導員、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士/公認心理師、教員など、多様な職種が集まり、日々の支援から最新知見に基づく実践まで、幅広い演題が取り上げられていました。通常は耳にする機会が少ない課題に加え、施設と在宅それぞれの現場で生じる異なる視点にも触れることができ、大変学びの多い内容でした。

会場内には車いす、移動装置、姿勢保持具、コミュニケーション機器などの展示スペースが設けられ、支援に関わる機器や環境整備に関する情報を直接確認で

「第50回日本重症心身障
害学会学術集会」看板



きる機会でもありました。

次年度の第51回学術集会は、愛媛県にて若本裕之先生（愛媛県立子ども療育センター所長）を学術集会会長として開催される予定です。